

令和5年度青森県農薬管理指導士認定期間更新研修 ミニテスト

次の各設問①～③の赤字の部分が解答となります。

問1 農薬ではない除草剤について、誤っているものを1つ選びなさい。

- ①農薬の登録番号は表示されていない。
- ②家庭菜園での栽培や公園等での植栽管理には、使用しても問題ない。
- ③果樹園地内や水田畦畔等の除草には、使用できない。

問2 農薬の登録について、誤っているものを1つ選びなさい。

- ①登録された農薬は、3年間の有効期間があり、期限内に更新しなければならない。
- ②平成30年に農薬取締法が改正され、農薬の再評価制度が導入されている。
- ③農薬のリスク評価に際しては、ミツバチや蚕などの有用生物、水域の生活環境動植物への影響も評価対象となっている。

問3 農薬使用基準の記載について、誤っているものを1つ選びなさい。

- ①農薬の表示事項を遵守することが規定されている。
- ②くん蒸・航空機・ゴルフ場での農薬使用に当たっては、農薬使用計画書を提出しなければならない。
- ③残留農薬基準値が0.01ppmであることが規定されている。

問4 令和3年における全国の農薬事故の状況について、誤っているものを1つ選びなさい。

- ①人への農薬事故は少なく、主な原因は、農薬のラベルを確認しないことであった。
- ②農作物事故の主な原因は飛散防止対策が不十分だったこと等であった。
- ③農薬を水路や河川に流出させたことによる魚類への被害が発生した。

問5 急性参照用量（ARfD）の記述として、正しいものを1つ選びなさい。

- ①その農薬をヒトが一生涯に渡って、毎日摂取し続けたとしても危害を及ぼさないと見なせる量のこと。
- ②その農薬をヒトが24時間又はそれより短い時間で経口摂取した場合に健康に悪影響を示さないと推定される一日当たりの摂取量のこと。
- ③定められた使用方法（使用回数、収穫前日数、使用濃度）で作物に農薬を使用した場合、収穫時の作物に残留する農薬の濃度のこと。

問6 農薬の使用後の行動について、誤っているものを1つ選びなさい。

- ①農薬散布後はタンクや配管等に薬液が残っており、次回散布時に混入することを防ぐため、使用後は、散布器具を丁寧に洗浄する必要がある。
- ②農薬が一時的に余ったため、空き瓶に一時的に移し替えて、冷蔵庫へ保管した。
- ③殺虫剤と展着剤を使用したので、それぞれ使用したことを帳簿に記載した。

問7 同じ農薬登録（使用方法）と誤解しやすい農作物に係る記載について、誤っているものを1つ選びなさい。

- ①「だいこん」と「はつかだいこん」は異なる農薬登録である。
- ②見た目が同じでも、収穫部位の大小や、収穫部位によって農薬登録は異なる。
- ③「にんにく」と「葉にんにく」は同じ農薬登録である。

問8 農薬のドリフト対策について、誤っているものを1つ選びなさい。

- ①異なる品目の作物を栽培する際は、畝間を一定以上離す等、緩衝地帯を設ける。
- ②周辺への影響が少ない天候や時間帯に散布し、風向きやノズルの向きにも注意する。
- ③液剤よりも飛散が少ないため、強風時には粉剤を使用する。

問9 農薬のローテーション散布について、誤っているものを1つ選びなさい。

- ①IRACコードは殺菌剤、FRACコードは殺虫剤の分類表であるため、農薬の使用に当たって参考とする。
- ②薬剤抵抗性・耐性は、農薬の過剰な使用や連用によって発達していく。
- ③異なる農薬の名称でも、RACコードの分類が同じものがある。このため、ローテーション散布する際は、RACコードが異なる農薬を選択する。

問10 植物防疫に係る記載について、誤っているものを1つ選びなさい。

- ①病害虫の発生や防除方法等が記載された「発生予報」等の予察情報を県が発表しているため、防除の際に参考とする。
- ②総合防除において、農薬の使用は手段の一つである。また、農薬の使用による薬剤抵抗性・耐性の発達を遅らせるためにも、総合防除に取り組むことが重要である。
- ③総合防除では殺虫剤・殺菌剤の使用について、IPMでは除草剤の使用について、それぞれ定めている。